

子どもの未来応援団報告書

表題：外国ルーツの生徒の学習支援「放課後プロジェクト」

学校・団体名：多文化LIFE

活動グループ名：多文化LIFE

担当者・教諭名：入倉眞佐子

活動人数：12人

(1) 活動を始めた理由

来日して3年以内の外国ルーツの中学生は、来日直後から専門家による日本語指導を受けていないため、日常会話ができるようになったとしても、日本語での教科の学習が難しく、高校入試の壁が本人の進路を阻むものになっている。

その壁を越えていくために、専門家による日本語での教科の学習支援をすべきと考え、授業計画を作成し、読解力・記述力の育成を中心にして、学習支援を9月末から2月まで、週2回、学習支援を実施した。

(2) 活動内容・活動の写真（カラー）



2025年1月25日 信濃毎日新聞記事より

(3) 活動結果

来日1年から3年目を迎える外国ルーツの箕輪中学生に対して学習支援を実施した。6人のうち、2人が中学3年生であり、高校入試を受験することを希望しており、もう1人が来日して半年程度であるが、既卒者と言う事で、中学校に通学することができなかった生徒である。この計3人の高校受験生を中心に学習支援計画を立て、5カ月間、週2回の放課後学習支援を実施した。

学習会場の確保が困難で、最初は役場の自習室で実施していたが、そこを使うことが困難となり、自宅を開放して実施した。

外国ルーツの生徒の国籍は、ブラジル、パラグアイ、フィリピン3人、ベトナムである。いずれも、来日して3年以内であり、日本語での学習言語が十分に身につけていない生徒たちである。

高校の入試制度が変わり、特例措置が受けられるものの、日本語の基礎学力がないために、高校合格を不安に考える生徒たちもいたが、週2回の地道な支援により、何とか、前期試験で合格者を出すことができた。

年末年始には、地域の日本語教室に通う外国ルーツの学習者も参加してくれて生徒たちのお昼ご飯を作ってくれるなど、世代間交流も深まり、生徒たちは、力をもらって、受験に臨むことができた。

この支援活動により、計画的な専門家による学習計画があり、本人たちの頑張りがあれば、何とか本人たちが希望する高校に入学することが可能であることを立証できたと考える。

日本語ができないからといって、決して学力は低くない生徒たちであることを理解し、今後も継続して支援を続けていきたい。